健康福祉

Q 〈沖田 ゆかり 議員〉 息の長い被災者支援を

A 〈町長〉

被災者に寄り添った丁寧な対応に努める。

【Q1】地域支え合いセンターの活動内容及び現状と課題について伺う。

【A1】
支援対象世帯は大原ハイツの全121世帯を含む173世帯。
高齢者支援課の専門職6人と子育て・健康推進課の保健師5人が、訪問や電話などで生活相談や住まいの再建に向けた支援等を関係機関と連携し行っている。対応した世帯は119世帯。現役世代は訪問時に不在が多く担当者の連絡先を記入したチラシを配布しても連絡がない事が課題である。

【Q2】役場に相談窓口を設けるべきではないか。

【A2】
訪問と電話相談を基本としているが、役場内の地域支え合いセンターでも相談対応を行っている。

【Q3】被災児童・生徒への支援についての現状は。

【A3】
スクールカウンセラーが関わった児童・生徒数は42名。

【Q4】全国書画展覧会に東日本大震災で被災された釜石の小学生より励ましのお手紙が届いていたが、町内の被災児童・生徒は読んでいるのか。

【A4】
確認できていない。

▲ 掲示された励ましのお手紙

Q 健康寿命を延ばす施策は

竹爪 憲吾 議員

A 〈町長〉

若いうちから生活習慣病予防対策に取り組むとともに、介護予防の推進を図る。

【Q1】健康診断、ガン検診の受診率の推移は。

【A1】
特定健診は県平均を上回っている。ガン検診も県平均を上回っているが、第2次健康増進計画の目標値には達していない。

【Q2】受診率を上げる具体策は。

【A2】
土日の休日受診。個人の予定に合わせられる医療機関での検診。対象年代への無料クーポン発行。国、県、テレビ番組と共同し、勧奨はがきを対象者へ郵送する等。

【Q3】生活習慣病対策は。また、予防として運動習慣を促す施策は。

【A3】
特定健診結果に基づき、レベルに応じて保健師、栄養士による個別指導や、集団健康教室を実施。予防施策として「ノルディック・ウォーキング」と「シルバーリハビリ体操」の普及に努めている。

【Q4】普及の程度は。

【A4】
5月に開催したウォーキング大会に370名が参加。シルバーリハビリ体操は昨年度、参加者数延べ1万人。

【Q5】介護予防ポイント事業の予定は。

【A5】
平成30年8月1日から開始予定だったが、災害対応により延期し、平成31年1月1日からスタートする。

道路交通

Q 海田バイパス構想の再考は

立花 慶三 議員

A 〈町長〉

地形上の制約や事業費の面で実現は大変困難である。しかし、町の活性化や渋滞対策の重要な施策であり、災害に対する強靭化を国、県に働きかける。

【Q1】3年前からしつこく質問してきたが、熊野町独自の利便さのみを追求したものだった。
豪雨災害に加え、南海トラフ地震が現実となった場合は近隣市町全体の課題となる。町長の見解を聞きたい。

【A1】
この度の災害で一時的に町全域が孤立状態となり、広島呉道路の応急復旧後は交通が集中し、これまでにない渋滞を経験したが、地形上の制約や事業費の面で実現は困難である。「交通ネットワークの充実・強化」は総合計画にも掲げ、町の活性化や渋滞対策の重大な施策であり、引き続き施策の柱、県道矢野安浦線熊野バイパス及び県道瀬野呉線深原バイパスの各整備事業を推進すると共に、災害への強靭化を国、県に働きかけていく。

【Q2】近隣の市町から、どんどん熊野町に車両が流入してきた。「有難い熊野町、広熊バイパス」であったと思う。いざ津波になれば町外勤務者は帰ってこられない。アクセスの面での熊野町の重要性をもっと発信してほしい。

【A2】
津波等の対応では、一時的に直近の高い建物に避難し、落ち着いた段階で帰られると思う。熊野の中が狭いまだとパンク状態になり、抜けられるものも抜けられない。広域的に考えても、いま手を付けている町内の整備を進めていくのが得策だと考えている。

Q 町内県道、町道・町外アクセス道の拡充を

片川　学 議員

A 〈町長〉

道路網の充実と強化に向けて周辺市町と連携し、国と県に働きかけていく。

【Q1】平成32年12月の熊野トンネル無償化に伴う渋滞が懸念されるが。

【A1】
同時期に予定されている国道2号線東広島・安芸バイパスの併用による当町周辺での道路網の拡充も加味し、平谷交差点、海田大橋交差点などの改良や、既に着手している県道矢野海田線への進入ランプの設置などによる対応が示されている。

【Q2】7月豪雨災害の渋滞経験から、町内道路・町外アクセス道への再整備の必要性を再認識したが。

【A2】
町外とのアクセス道路が多くあることは、平常時の交通分散や目的に応じた経路の選択肢が増え、災害時における孤立化のリスクの軽減につながる。しかし、限られた財源の中で新たな路線を確保するのは困難であるため、本町では県が策定した「広島県道路整備計画2016」により、効率的・効果的な事業の推進を図っている。

【Q3】定住促進の面からも、通勤・通学、また医療機関へのアクセスの改善が課題では。

【A3】
現在着手している県道矢野安浦線熊野バイパス川角工区の早期完成と、これに続くバイパスの整備促進や延伸、また県道瀬野呉線深原バイパスの早期完成により道路網の充実と強化を図る。これにより、定住促進を図る上での要件の1つでもある道路交通における定時性と速達性の確保にもつながると考える。